様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：４４４１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１１９７８

研究課題名（和文）看護系高大接続による入学時学習レディネスが職業アイデンティティの発達に及ぼす影響

研究課題名（英文）Effect of nursing course pre-university education on professional identity development in articulation between high school and university

研究代表者
上田　博之（Ueda, Hiroyuki）

大阪信愛学院短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：００２０３４４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：看護系大学に進路選択中の高校生にとって，大学教員による入学前教育は興味深く，職業的アイデンティティ形成に有効であることが示唆された．入学時の動機づけは学期を通して維持され，職業的アイデンティティや学校適応感の促進と関連した．入学後の職業的アイデンティティ低下を防ぐためには，入学までに学習動機づけを高め，適切なロールモデルを示して職業観を築くことが重要である．そうすれば，入学時の高い内発的動機づけ傾向が維持されて，職業的アイデンティティや学校適応感を促進すると推定された．短期の入学前教育でも実験体験や看護師によるロールモデルの提示により職業的アイデンティティや学校適応感を促進することができる．

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年，門戸の広がった看護系大学には入学動機や職業意識において多様な学生が在籍する．学生が看護師として社会で活躍するために展開可能な知識を深めさせることが重要な課題である．高等学校から大学への進路選択の課程で高い学習動機づけを持つことが自己効力感を導き，看護師となる職業アイデンティティの形成に効果的であることを縦断的に検証した．また，高等学校・大学ともに高大接続に費やす時間が限られている現状から，効率的な入学前教育を検討することが重要であることを示した．

研究成果の概要（英文）：The pre-university education offered by university teachers to the high school students arouses students’ deep interest in the nursing course and development of professional identity. Students’ intrinsic motivation relating to the development of professional identity and school adaptation persists through the first semester of the nursing course in college. Therefore, it is essential to enhance intrinsic motivation toward nursing education and to provide appropriate role models to develop students’ view of the profession as a nurse before entering the university. If the students enter the university course with high intrinsic motivation, it will maintain through the semester and leads to the development of professional identity and school adaptation.
Short-term pre-university education, which lessens the burden on university teachers, is also useful to enhance professional identity and school adaptation by offering experimental experiences and role models to the high school students.

研究分野：環境生理学

キーワード：職業アイデンティティ　内発的動機づけ　学校適応感　高大接続　入学前教育

１．研究開始当初の背景

課題や実習の学びとレディネスが相互に関連しあうことで一歩進んだ学習ができ，学習全体が加速する（高橋 1994）．近年，自然体験や初等・中等教育における実験・実習機会の減少などから先行経験の乏しい学生が増加している．加えて，入学試験偏重の暗記型学習は，学生の知識と技能の展開を困難にしている．看護系人材養成では，学生は入学後の基礎教育を終えるとすぐに知識や技術の展開を必要とされる．課題や実習に取り組む中で学生は暗記型学習による知識と現実の課題で要求される知識とのギャップに思い悩み，学習への意欲を失い，看護師になるという目標からも後退するケースもみられる．特に，国家資格取得，経済的価値，親の勧めなど消極的な動機で看護系大学に入学した学生は，タイトなカリキュラムや知識活用力を求められる実習などで不適応状態に陥りやすいことが知られている．このような状態を回避するためには，看護師養成において進路選択時の動機づけや職業的アイデンティティ形成の促進が重要であることが示唆されている．

２．研究の目的

看護系人材養成において，高等学校在学中の進路選択の段階から入学初期における学習動機づけや職業的アイデンティティの形成が重要であることを検証する．高大接続教育の構築に向けた一つの試みとして行われる大学教員が実施する入学前教育が学習動機づけや職業的アイデンティティに及ぼす影響を検討するとともに，その在り方を考えるための一助となる調査を行った．

（1）調査１

看護学科の大学教員が専門性を踏まえた授業を行う高大接続が，看護系を希望する進路選択中の高校生の学習意欲と職業的アイデンティティ形成に及ぼす影響を検討した．

（2）調査２

調査１の高大接続に参加した生徒の看護系短期大学入学後の職業的アイデンティティ，目標志向，自己効力感の変化をフォローアップした．

（3）調査３

看護課程に入学した学生の初期段階の動機づけと職業的アイデンティティの変化の様相を知るために，入学直後及び１年前期終了時の学習動機づけを測定し，その変化を検討した．加えて，動機づけと職業的アイデンティティや教育環境への適応感との関連を検討した．

（3）調査４

学習動機づけと職業的アイデンティティ形成の促進に効率的な高大接続教育手法を検討するために，早期に入学を決めた学生を対象に１日のスクーリングと e ラーニングの入学前教育を実施した．受講学生の看護課程入学時における学習動機づけと職業的アイデンティティ形成，さらに学校適応感のレベルに及ぼすこれら入学前教育の影響について検討した．

３．研究の方法

（1）調査１

A 高等学校「看護･医療コース」の 2 学生 30 名と 3 年生 31 名を対象とし，短期大学教員による「看護･医療入門」講座を実施した．看護の 4 つの概念である人間・健康・看護・環境を基本テーマとして，2 年生には 21 回，3 年生には 15 回の通年講座を行った．職業的アイデンティティの形成変化を想定して 2 年生には看護や医療に必要な基礎的知識や技術を紹介する授業を行い，3 年生に看護師の実践的な職業イメージを描かせる授業を行った．授業形態は，講義，見学，体験学習，グループワーク発表，短期大学生の基礎看護学実習学習発表会への参加などである．講座終了後，対象者に一斉に調査協力の依頼を書面及び口頭で行い，質問紙法(無記名自記式)で調査を実施した．調査は，受講した授業の分かりやすさ・看護への興味・進路選択への参考について 4 段階で，職業的アイデンティティ尺度 10 項目（波多野ら 1993）および学習意欲尺度（Keller 2011）4 領域〔注意・関連性・自信・満足感〕34 項目について 5 段階で，それぞれ回答を求めて数値化した．そして，各尺度得点を算出し，t 検定で学年間を比較した．

（2）調査２

調査１の高大接続に 2 年間参加した生徒のうち系列の B 短期大学看護学科に入学した学生 7 名を調査対象（参加群）とした．対照群は調査群と同年度に同学科に入学した学生から研究への参加同意が得られた 44 名である（不参加群）．入学直後と１年次前期終了時に参加群および不参加群に対して目標志向と自己効力感について調査した．目標志向に関しては「Goal Orientations and Agency Beliefs Scale」(Niemivirta 1999)の翻訳から目標志向 15 項目を抜粋し，自己効力感に関しては「Self-efficacy Scale」(Bandura 1991, Pintrich 1990)を参考に 6 項目を作成して，それぞれ 6 段階で回答を求めた．それぞれ下位尺度の尺度得点を求めて参加・不参加の群差および入学時・前期終了時の差を 2 要因分散分析で検討した．また，職業的アイデンティティについて調査１と同様の項目を１年次前期終了後に両群に調査した．さら

に，参加群については高等学校 2 年時の職業的アイデンティティ尺度得点と縦断的比較を行った．

（3）調査 3

3 年課程の看護学科の 1 年生 62 名を対象に，入学後間もない 4 月と 3 か月後の 7 月に 2 回の調査を実施した．調査には，看護課程における学習動機づけ 14 項目（安藤 2005），看護師としての職業的アイデンティティ 20 項目（佐々木・針生 2006），大学における適応感 22 項目（大久保 2005）用いた．各項目について， 6 段階で回答を求めて数値化した．動機づけ，職業的アイデンティティ，大学適応感の下位尺度を検討し，尺度間の関係と変化について探索した．

（4）調査 4

調査 2 でフォローされた内容を踏まえ，また大学教員の負担を考慮した効率的な入学前教育の試みとして，1 日のスクーリングと e ラーニングによる基礎教育を実施した．調査 3 の対象となる学生から系列高校を除く同地域にある高等学校の出身者で，推薦入試などにより入学前年の 11 月以前に入学予定となった学生から無作為に選んだ 20 名を対象とした．このうち 5 名は同年 12 月に入学前教育を受講した学生（参加群），残りの 15 名は入学前教育に不参加の対照学生（不参加群）である．参加群・不参加群ともに私立学校と公立学校の出身者が 3：2 の割合で混在している．両群を対象に入学後の 4 月に，看護課程における学習動機づけ，看護師としての職業的アイデンティティ，大学における適応感について調査した．参加・不参加群の差を t 検定で検討するとともに，各下位尺度間の相関関係を検討した．

４．研究成果

（1）調査 1

短期大学教員が行う講座について，高校 2・3 年生全対象者が「とても分かりやすかった」または「分かりやすかった」と回答した．看護への興味について 2・3 年生全対象者が「とても興味を持てた」または「興味を持てた」と回答した．進路選択への参考について，2 年生 1 名を除く全対象者が「とても参考になった」または「参考になった」と回答した．このように大学教員が行う高大接続講座は進路選択中の高校生にとって興味深く，進路選択の参考になることが示された．

2・3 年生の職業的アイデンティティを比較した結果，3 年生の職業的アイデンティティ（4.42±0.46）は 2 年生（4.18±0.61）に比べて高い傾向であった（$t(59)=-1.76$, $p<.10$）．また，2・3 年生の学習意欲について関連性（3.46±0.41 vs 3.64±0.38）と自信（3.40±0.36 vs 3.53±0.36）には学年間の有意差は認められなかったが，2 年生に比べて 3 年生の注意（3.53±0.48 vs 3.80±0.54）と満足感（3.66±0.39 vs 3.91±0.53）は有意に高かった（$t(59)=-2.04$, $t(59)=-2.09$, $p<.05$）．

これらの結果から，進路選択中の 2・3 学年の高校生は短期大学教員が実施する講座に強い興味を示すと考えられる．高校生にとって大学の施設や設備を利用することや臨床経験のある大学教員から説明を受けることは新鮮であるとともに実践的な学習であったと考えられる．そのことが，職業イメージをより明確にして，学習への興味と熟達思考を促進したと考えられる．両学年とも高い職業的アイデンティティを示したことから，高大接続講座は職業的アイデンティティ形成に有効であると推察できる．3 年生における強い学習意欲（注意・満足感）や高い職業的アイデンティティの傾向は，卒業が近づいて就くべき職業を熟考しなければならないと考えることが影響したのであろう．生徒の進路選択状況を考慮して，高大接続のより効果的な時期を選ぶことが大切である．本調査における高大接続は通年で多くの時間を費やして行われたが，大学教員が高大接続に割ける時間は限られている．短時間で効果的な実施方法を模索する必要がある．

（2）調査 2

目標志向の下位尺度である遂行接近目標・遂行回避目標・回避目標には，参加の有無や調査時期で差は認められなかった．しかし，学習目標において参加の有無の主効果が有意傾向であり，参加群が不参加群に比べて高い傾向であった（$F(1, 49)=3.17$, $p<.10$）．また，調査時期の主効果も有意傾向であり，入学直後に比べて前期終了後に減少する傾向がみられた（$F(1, 49)=2.89$, $p<.10$）．達成目標においては参加の有無に主効果は認められず，調査時期の主効果が有意であり，入学直後から前期終了後に有意に低下した（$F(1, 49)=21.05$, $p<.05$）．いずれの下位尺度得点においても，参加の有無と調査時期の要因に有意な交互作用は認められなかった．

自己効力感の下位尺度である結果統制において参加の有無の主効果は認められなかったが，調査時期による主効果が認められ，入学直後から前期終了後に有意に上昇した（$F(1, 49)=4.86$, $p<.05$）．行動統制では調査時期に主効果は認められなかったが，参加の有無による主効果が認められ，調査群が対照群に比べて高い傾向であった（$F(1, 49)=3.42$, $p<.01$）．いずれの下位尺度においても，参加の有無と調査時期の要因に有意な交互作用は認められなかった．

参加群の高等学校 2 年在学時と短期大学 1 年次前期終了時の職業的アイデンティティを比較した結果，職業的アイデンティティは高等学校 2 年在学時に比べて短期大学 1 年次前期終了時の方が有意に低下した(t(6)=3.60，p<.05)．そして，短期大学 1 年次前期終了時の参加群と不参加群の職業的アイデンティティに有意差は認められなかった．

短期大学入学時の参加・不参加群の比較から，高大接続講座が職業的アイデンティティを高めるために有効であることが示唆された．高大接続講座でより明確になった職業イメージが学習目標を高め，さらに入学後の自己効力感（行動統制）を高く推移させたと考えられる．しかし，入学時に高値を示した学習目標は，前期終了時に低下する傾向であった．高い学習目標を持った学生が大学の現実的な学習に対して深く理解することや高い成績を志向することを維持できなかったと考えられる．医療系短期大学における過密な授業スケジュールや要求される基礎学習のレベルに困難さを感じたことが,学習目標および達成目標低下の大きな要因と考えた．参加群の入学時に示した比較的高い行動統制は，高大接続講座で触れた代理体験や言語的説得による自己効力感の促進によるもので，制御体験が乏しいために困難に直面して消失したかもしれない．職業的アイデンティティの低下は，深い理解を志向する学習目標や学習を進めるための行動に対する効力感の低下と関連することが示唆された．早期に形成されたアイデンティティが現実と異なれば，それは大きく低下する．青年期の学生が持つ職業的アイデンティティは環境要因から影響を受けやすいため，学生の看護職観を確立する上で現実的な職業モデルの提示は重要な要素である．また，深い理解を志向する学習目標や学習を進めるための行動を実行する効力感を促すためには，看護の学習に対する動機づけを促進しなくてはならない．これらのことを考慮して，高大接続の実施方法を検討する必要がある．

（3）<u>調査 3</u>

学期初期のデータを用いて因子分析を実施して尺度構成を行い，妥当性を確認した．興味や楽しみ，自己の成長や学習の価値の内面化が進んでいる内発的動機づけや自律的な外発的動機づけは職業アイデンティティや学校適応感とポジティブに関連する傾向が示された．そして，この関連性は 3 カ月が経過した学期後期により顕著であった．また，他者からの叱責の回避を主な目的としている統制的な外発的動機づけは，職業的アイデンティティや学校適応感と無相関あるいはネガティブな相関を示した．

看護課程入学直後の学期初期と学期後期の動機づけの変化を検討するために，両時期の動機づけ尺度をクラスタリング変数としてクラスタ分析を行った結果， 3 クラスタを抽出した．クラスタと調査時期を独立変数とした 2 要因の分散分析を行った結果から，自律的動機づけ群（n=25)，統制的動機づけ群（n=24)，低動機づけ群（n=13）が確認された．調査時期の主効果が有意ではなかったことから，各群の動機づけのレベルは入学時から入学後の前期期間中にあまり変化しないことが推測される．また，自律的動機づけ群は他の群よりも職業的アイデンティティや学校適応感が高い傾向が示された. すなわち, 入学時に自律的な動機づけ傾向を示し, 学期中それを維持することによって，職業的アイデンティティや学校適応感が促進されることが推定される．したがって，入学後の課程教育において自律的な学習動機づけを促進することはもちろん，入学前教育においてもそのような学習動機づけを高めることは，職業的アイデンティティ形成に極めて重要であると考えられる．

（3）<u>調査 4</u>

調査 2 で見られた入学までに高められた職業的アイデンティティの低下を防ぐためには，入学前教育において適当なロールモデルの提示が必要と考えられる．加えて，大学教員の時間確保の点からも効率的な実施方法を考えなければならない．調査 4 ではこれらを考慮して 1 日のスクーリングと e ラーニングによる基礎教育からなる入学前教育を実施した. 1) 基礎医学に関心を持たせること, 2) 臨床経験のある看護師から適切なロールモデルを提示して看護師の社会的価値を認識させること, 3) 看護師を目指す生徒同士の情報交換により学業への動機づけを促進すること, を目的としたこの入学前教育の参加群･不参加群が入学後に答えた学習動機づけ, 学校適応感，職業的アイデンティティを比較した．

動機づけの下位尺度である内発的動機づけ，自律的外発的動機づけ，統制的外発的動機づけにおいて参加群と不参加群に有意な差は認められなかった．また，職業的アイデンティティ尺度の下位尺度である職業的充実感，職業的不適応感，職業的継続性，職業的スキルにおいては参加群と不参加群に有意な差は認められなかったが，参加群の職業的使命感が不参加群に比べて有意に高かった（t(18)=2.55，p<.05)．大学適応感尺度の下位尺度である目標意識感と学校承認感において参加群と不参加群に有意な差は認められなかったが，参加群の学校適応感が不参加群に比べて有意に高かった（t(18)=2.49，p<.05)．また，学校充実感において参加群が不参加群に比べて高値を示す傾向であった（t(18)=1.77，p<.10)．

内発的動機づけは, 職業的使命感･職業的スキルと有意な正の相関関係(r=.52, p<.05･r=.79, p<.01）を，また，職業的不適応感と有意な負の相関関係（r=-.45，p<.05）を示した．学校適応感は，職業的スキルと有意な正の相関関係（r=.51，p<.05）を，また，職業的不適応感と有

意な負の相関関係（r=-.62，p<.01）を示した．目標意識感は職業的充実感，学校承認感は職業的使命感とそれぞれ有意な正の相関関係（r=.55，p<.05・r=.55，p<.05）を示した．
これらの結果から，短期の入学前教育でも実験体験や看護師によるロールモデルの提示を効果的に行うことで，職業的使命感，目標意識感，学校承認感の向上促進に有効であると考えられる．しかし，内発的動機づけや自律的外発的動機づけは，今回実施した入学前教育では促進するに及ばなかった．これらを高めることは職業的アイデンティティ形成に効果的であることが示されていることから，入学前教育の実施内容，時間や時期，大学教員の負担等を考え合わせてより良い実施方法をさらに検討することが重要である．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計３件）

① 豊島めぐみ，石井あゆみ，津田右子，短期大学看護学科における高大連携事業に関する高校生の学習意欲と職業的アイデンティティの発達，大阪信愛女学院大学紀要，51，A2，2017
② 豊島めぐみ，田中希穂，津田右子，上田博之，看護学科に入学した高大接続参加学生の目標志向，自己効力感の変化，大阪信愛女学院短期大学紀要，52，A2，2018
③ 上田博之，豊島めぐみ，田中希穂，石井あゆみ，小林菜穂子，津田右子，看護系短期大学入学生の職業的アイデンティティ形成を促す入学前教育の試みと有効性，大阪信愛学院大学紀要，53，A1，2019

〔学会発表〕（計１件）

① 豊島めぐみ，津田右子，上田博之，短期大学看護学科における高大接続事業に関する一考察‐高校２・３年生の学習意欲と職業的アイデンティティの形成変化（第１報）‐，第 47 回日本看護学会－看護教育（於びわ湖大津プリンスホテル）8/4 2016．

６．研究組織

(1)研究代表者
上田　博之
ローマ字氏名：(UEDA，hiroyuki)
所属研究機関名：大阪信愛女学院短期大学
部局名：その他部局等
職名：教授
研究者番号：00203448

(1)研究分担者
研究分担者氏名：田中　あゆみ
ローマ字氏名：(TANAKA，ayumi)
所属研究機関名：同志社大学
部局名：心理学部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：00373085

研究分担者氏名：田中　希穂
ローマ字氏名：(TANAKA，kiho)
所属研究機関名：同志社大学
部局名：免許資格課程センター
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：40399043

研究分担者氏名：豊島　めぐみ
ローマ字氏名：(TOYOSHIMA，megumi)
所属研究機関名：梅花女子大学
部局名：看護保健学部
職名：助教
研究者番号（8 桁）：70773274

研究分担者氏名：小林　菜穂子
ローマ字氏名：(KOBAYASHI，nahoko)
所属研究機関名：四条畷学園大学
部局名：看護学部
職名：助教
研究者番号（8 桁）：80751114